

Press Release

2006年4月25日

報道関係者各位

株式会社 キヤドセンター
<http://www.cadcenter.co.jp/>
〒160-0002 東京都新宿区坂町 23-2
TEL.03-5312-6401 FAX.03-5312-9700
NO. 06-003

障がい児療育支援システム「たっちゃんのコネク島」を開発・販売 キヤドセンター、杉並区立こども発達センター、女子美術大学 産・官・学の3者共同により「レインボープロジェクト」立ち上げ

株式会社キヤドセンター(本社=東京都新宿区、浜野美行社長)は、杉並区立こども発達センター、女子美術大学と産・官・学の3者共同で「レインボープロジェクト」を立ち上げ、障がい児のための療育支援用コミュニケーションシステム「たっちゃんのコネク島」を開発、2006年5月25日より販売開始します。同システムは主に発達の遅れや偏りのある幼児を対象にしたもので、軽く画面に触れるだけでコンテンツを自在に操れるキヤドセンターの高感度タッチ式ディスプレイ「NEXTRAX™」(ネクストラックス)を採用した、これまでにないコミュニケーションシステムです。

知的障害・肢体不自由・発達障害などがある発達年齢が概ね1歳からの子どもが楽しみながら学べるようソフトおよびハードウェアを開発しました。心身に障害がある子どもの発達支援には、他者とのコミュニケーションの姿勢を育てることが重要です。また視覚・触覚・聴覚といった五感に訴えかける方法が有効であり、マルチメディアの活用が考えられます。こうした中、レインボープロジェクトの取り組みは「反応を繰り返し楽しむ」発達段階から「物を介して大人や友達との関係を広げていく」段階への発達支援をテーマとし、2004年度からスタートしました。キヤドセンターは技術協力という形で参画し、杉並区立こども発達センターはプログラム原案提供・実践評価、女子美術大学はコンテンツ(ソフト)開発と、3者それぞれの強みを生かした共同体制を構築、複数の人が画面をタッチし遊びながらコミュニケーションできるシステム機器とコンテンツの開発を行いました。これまで評価委員会の開催や関係機関でのモニタリング実施などを経て、2005年12月京都で開催された「ATACカンファレンス」(障害のある人や高齢者の自立した生活を助ける電子情報支援技術とコミュニケーション支援技術の普及を目的として開催)にて発表と展示も行っています。

ソフトとハードを組み合わせたシステムとして販売するほか、ソフトのみの販売も行います。ハードとしては学校・施設向け大型50インチプラズマディスプレイから個人向けである15インチ液晶ディスプレイまで取り揃え、販売展開する予定です。今後は、発達の遅れにかかわらず、誰でも楽しみながら学べるコミュニケーションシステム「たっちゃんのコネク島」を療育の場で幅広く活用していただけるよう、3者共同でさまざまな提案を行っていく考えです。

※なお、当システムは既に指導に活用している杉並区立こども発達センターのほか、女子美術大学、キヤドセンターでもご覧いただけます。デモ用CDにはサンプルのほか、杉並区立こども発達センターでの実際の療育の様子が収録されておりますので併せてご覧ください。

